

# 2022年度 年次報告書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA  
Annual Report 2022-2023



2022年12月28日特別演奏会「第九」 指揮＝ジョナサン・ノット 合唱＝東響コーラス

# Message

## ご挨拶



平素は東京交響樂團をご支援いただき、心より御礼を申し上げます。理事長の岡崎哲也でございます。新型コロナ感染症もようやく新しい局面を迎えておりますが、2022年度は前年度に比べますと、ほぼ予定通りに公演を実施できるようになり、多くのお客様に充実した音楽をお届けできたものと存じております。この間、皆様から温かい拍手や応援のメッセージを頂き、団員一人ひとりが音楽を奏でる喜びを授けていただきました。心から感謝申し上げます。また多くの皆様からいただいたご寄付は当楽団の存続と発展の大きな支えとなっております。ご支援に改めて御礼を申し上げます。

現在、当楽団はお陰様で各方面から日本のトップクラスにあるというご評価をいただいておりますが、皆様からの温かいご声援にさらに報いることができますよう邁進して参ります。皆様のご健勝をお祈り申し上げます共に、当楽団の奏でる音楽にどうぞご期待ください。

東京交響樂團

理事長 岡崎 哲也

## 2022年度活動概要

### 定期演奏会

5月(第699回)、シーズン最初に音楽監督ジョナサン・ノットが登場。ショスタコーヴィチ：ピアノ協奏曲第1番では、ペーター・ヤブロンスキーと首席トランペット奏者の澤田真人が軽やかでリズムカルな掛け合いをみせた。3年ぶりに登場した東響コーラスは、練習の時から感染症対策等の苦労があった中、「ウォルトン：ベルシャザールの饗宴」を圧倒的な強さで歌い切り、会場からの喝采を浴びていた。6月(第700回)はイオン・マリンの指揮により、「火の鳥」を1910年オリジナル版で演奏。7月(701回)はノット音楽監督が、マーラーの交響曲第5番を指揮し、ライブCD録音を行った。8月(第702回)は、体調不良のマティアス・ピンチャーに代わり、既に海外では活躍中のブラハ出身ペトル・ポベルカとの初共演となった。客演ながら、楽員からの強い信頼と共感を得て、ベルク：ヴォツェックからの3つの断章(sop.森谷真理)、ラフマニノフ「交響的舞曲」などを緻密かつダイナミックに鳴らし、高い評価を得た。9月(第703回)は新鋭ショハキモフによるプロコフィエフの交響曲第5番。10月はノット監督による定期を2プログラム開催した。10/15(第705回)は恐るべき集中力でショスタコーヴィチ4番を演奏し、10/23(第706回)のブルックナー交響曲第2番はスケルツォを第2楽章に置くなど、ノット独自の考えに基づいた版で演奏された。11月(第706回)ヴァイトハースのシューマンのヴァイオリン協奏曲にベートーヴェン2番をメインに置くロマン派プログラム。2月(第707回)は、邦人作曲家の紹介に取り組む当団正指揮者の原田慶太楼が、小田実結子の委嘱新作、菅野祐悟の交響曲第2番を取り上げた。3月(第708回)は、佐藤俊介の弾き振りによるシュポア協奏曲第8番、ベートーヴェン、メンデルスゾーンの交響曲。才能ある若き演奏家とともに音楽を楽しむ楽員たちの姿が印象的だった。

### その他主催公演

東京オペラシティシリーズでは、指揮のリオネル・ブランギエ、指揮&クラリネットのオッテンザマー、ヴァイオリンの郷古廉、チェロの岡本侑也など、新しい才能に多く触れる機会を提供した。川崎定期演奏会は、定期演奏会とオペラシティシリーズからピックアップした5公演を主催し、うち4公演をニコニコ動画でライブ配信し、多くの視聴者を得た。

特別演奏会 8月に原田慶太楼プロデュースによる「軽井沢シリーズ第1回」を大賀ホールで開催した。午前中は0歳児からのコンサート、ソワレ公演ではピアノ清塚信也が出演し、満席でスタートを切ることができた。11月ノット監督によるR.シュトラウス「サロメ」(演奏会形式)では、ソプラノのグリゴリアンが、現在世界最高峰のサロメを聴かせ、ヨカナーンのトマソンの声は神々しく響いた。ノットの棒にオーケストラが全力で応え、愛憎の世界を描き切った。当公演は「音楽の友」誌の評論家が選ぶコンサート・ベストテンに、名だたる海外オーケストラをおさえて第2位に入った。

### フランチャイズ事業

「モーツァルト・マチネ」「映画音楽」「ミュージザの日」「ジルベスター・コンサート」「フェスタサマーミュージカWASAKI」が、川崎市文化財団の主催で開催された。共催の「名曲全集」は全10公演中5公演を無料配信し、全国のファンに視聴された。新潟定期演奏会は定期演奏会等、東京での公演と同内容の回と、新潟独自のプログラムによる6公演が催された。12月には藤岡幸夫の指揮で、にいがた東響コーラスが、フォーレのレクイエムを歌った。

### 青少年育成プログラム

コロナ禍で中止していた「0歳からのオーケストラ」を3年ぶりに開催。ズーラシアンプラスとの共演は変わらず、会場が久しぶりに親子で賑わった。「こども定期演奏会」は、ヴァイオリンのHIMARI、ピアノの角野隼斗などフレッシュなソリストと共演。こども奏者24名との共演も引き続き行い、原田慶太楼の企画による新曲チャレンジプロジェクト第2回では、新人作曲家を発掘するなど様々な企画が好評を博した。

### 依頼公演

新国立劇場のオペラ「タンホイザー」「ファルスタッフ」「ホフマン物語」、バレエ「コペリア」では、各公演が高く評価された。日生劇場主催のオペラ「セビリアの理髪師」は学生を対象として6公演を含む全8公演を担当、文化庁の巡回公演では、埼玉県、栃木県、福島県で計6公演を行い、各地に音楽を届けた。

# Fiscal Report

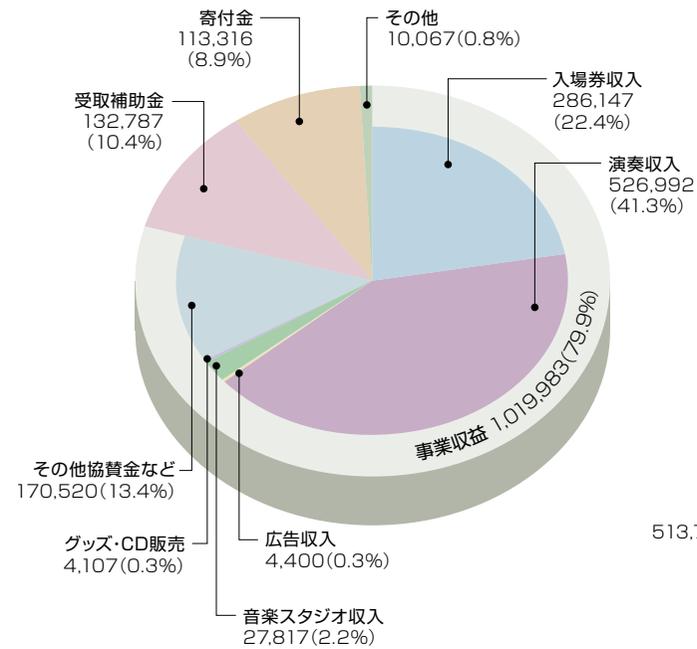
## 財産・運営状況について

| 科目      | 2022年度    | 2021年度    | 2020年度    |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 経常収益計   | 1,276,153 | 1,255,780 | 1,221,083 |
| 内・事業収益  | 1,019,983 | 964,863   | 762,163   |
| 内・受取補助金 | 132,787   | 139,126   | 105,061   |
| 内・寄附金   | 113,316   | 133,139   | 178,865   |
| 経常費用計   | 1,245,701 | 1,198,988 | 1,119,169 |
| 当期経常増減額 | 30,452    | 56,792    | 101,914   |

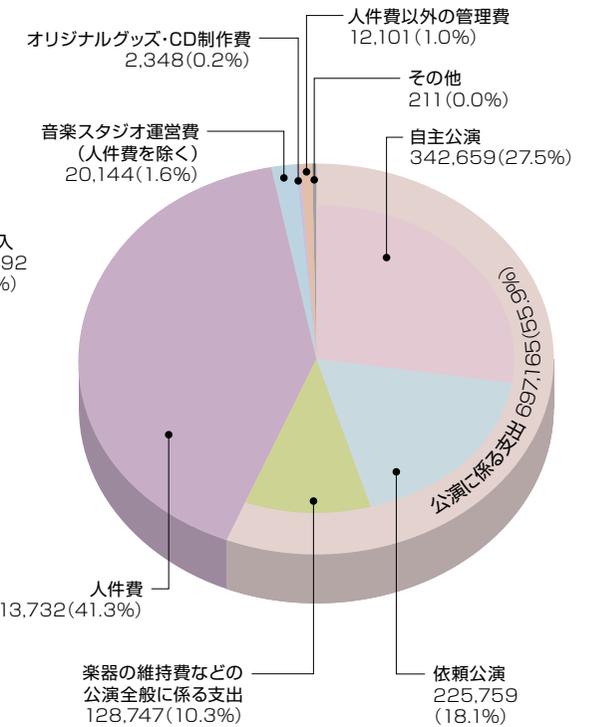
事業収益が10億円を超え、入場料収入、演奏収入とともに回復しつつある。補助金の割合がまだ高いが、今後、コロナ対策で設けられた補助金制度や事業が終了した場合の対策が求められる。

寄附金については、特に企業から、感染症対策や、物価高、円安により寄附金の減額、寄附の見直しなどの話も出てきており、今後新しい寄付者の開拓が必須である。

収入(2022年度) 1,276,153 (単位:千円)



支出(2022年度) 1,245,701 (単位:千円)



# Across the 2022/23 Season

## 演奏記録(全139公演)

### ●自主公演(49回)

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| 定期演奏会 (第699回～第708回)        | 10回 |
| 川崎定期演奏会 (第85回～第89回)        | 5回  |
| 東京オペラシティシリーズ (第126回～第131回) | 6回  |
| 名曲全集 (第176回～第185回)         | 10回 |
| こども定期演奏会 (第81回～第84回)       | 4回  |
| 特別演奏会                      | 14回 |

### ●依頼公演(108回)

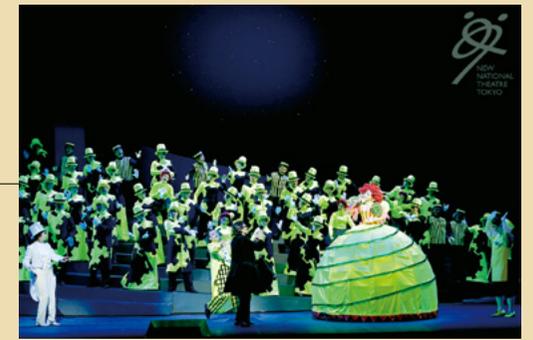
|                     |     |
|---------------------|-----|
| 新潟定期演奏会             | 6回  |
| オペラ・バレエ公演           | 31回 |
| 音楽鑑賞教室・青少年のためのプログラム | 27回 |
| その他                 | 44回 |

### ●その他の事業(2回)

|       |    |
|-------|----|
| 録画・録音 | 2回 |
|-------|----|



新国立劇場バレエ団『コッペリア』  
指揮＝マルク・ルロワ＝カラタユード  
振付＝ローラン・プティ 2023年2月  
(撮影：長谷川清徳/提供：新国立劇場)



新国立劇場オペラ「ホフマン物語」  
指揮＝マルコ・レトローニャ  
2023年3月 (撮影：寺司正彦/写真提供：新国立劇場)



「第九」40台のカメラで見る  
ニコニコ動画ライブ配信 ©平館平  
指揮＝ジョナサン・ノット  
2022年12月28日 サントリーホール



「サロメ」(演奏会形式)  
指揮＝ジョナサン・ノット  
ソプラノ＝アスミク・グリゴリアンほか  
2022年4月20日 サントリーホール



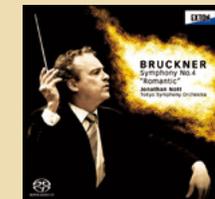
©池上直哉



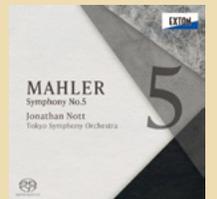
「子供たちと芸術家の会おう街」  
指揮＝原田慶太楼  
2023年3月28日 東京芸術劇場 写真 ©Tomoko Hidaki



CDマーラー交響曲第1番



CDブルックナー第4番  
「ロマンティック」



CDマーラー交響曲第5番



キッズプログラム「0歳からのオーケストラ」  
ズーランドプラス meets 東京交響楽団  
指揮＝オカビ、水戸博之  
2022年4月29日 ミューザ川崎シンフォニーホール



「軽井沢シリーズ」第1回  
指揮＝原田慶太楼 ピアノ＝清塚信也  
2022年8月22日



ミュゼザ川崎ジルベスターコンサート  
指揮＝秋山和慶 2022年12月31日

# Members

## サポート会員(2023年7月1日現在)

### ■法人会員

#### プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス  
株式会社ドワンゴ

#### ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人  
株式会社伊藤総合事務所  
株式会社イノアックコーポレーション  
株式会社インサイド・アウト  
環境ステーション株式会社

株式会社ティー ワイ リミテッド  
株式会社日本財託  
株式会社パソナグループ

#### ゴールド会員

株式会社青山メインランド  
株式会社 あ佳音  
オリエンタル酵母工業株式会社  
サントリーホールディングス株式会社  
株式会社すかいらくホールディングス  
社会医療法人財団 石心会  
玉川学園・玉川大学  
玉の肌石鹸株式会社  
中外製薬株式会社  
銚子屋油槽船株式会社  
株式会社TFDコーポレーション

株式会社鉄鋼ビルディング  
株式会社トーションパートナーズ  
西松建設株式会社  
株式会社NIPPO  
株式会社日本M&Aセンター  
ヒノキ新薬株式会社  
司法書士法人 ふなぎき総合事務所  
ミヨシ油脂株式会社  
ヤマザキビスケット株式会社

#### シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト  
公益財団法人青梅佐藤財団  
川崎信用金庫  
松竹株式会社  
月島食品工業株式会社

東京鐵鋼株式会社  
司法書士法人村田事務所

#### ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社  
NPO法人かわさき市民アカデミー  
酒蔵駒八 別館  
株式会社シグマコミュニケーションズ  
新宿村スタジオ

有限会社青史堂印刷  
ニッシンエレクトロ株式会社  
富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社  
前山歯科医院  
株式会社LALLヒューマンホールディングス

#### 賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程  
政鬼運輸株式会社

山崎製パン株式会社

匿名2社

### ■個人会員

#### サークル50

磯村文靖 清水尚彦 横川 端  
伊藤晴美 長瀬雅則 匿名2名  
伊藤美樹 山口積恵  
鴛海量明 山口知子☆  
木暮紀子 山口 学  
澤田秀雄 山本誠一郎 ☆名誉パトロン

#### サークル25

石川晴依世 沖田陽子 戸川二郎  
猪田隆文 加藤英輔 平山智史  
井上孝昭 後藤 実 福川仲次  
岡野一哉 鈴木信恵 匿名3名

#### サークル10

天野佳和 渋谷慎吾 水越睦美  
新井祥一 清水幹雄 満田高久  
荒木陽子 白井恭一 三橋祐太  
五十嵐建平 高澤美貴子 峯岸恭博  
井澤菜緒子 高田光官 村本信幸・京子  
稲田めぐみ 高津麻子 森口 健  
岩城慶太郎 高野幸一 森口優子  
内山誠彦 高橋佐智子 森下国彦  
梅沢麻衣 高島琢己 八嶽 昭  
遠藤秀和 高家正行 山上典彦  
大内田由紀子 田口之博 山口重雄  
大城明幹 竹田 忍 山本 明  
大島 肇 田中健一 吉井久美子  
太田純子 谷川 啓 吉村美恵子  
大塚具幸 谷藤明雄 米岡修一  
大場潤一 千葉 清 若杉恵介  
大類 浩 角田 隆・直子 匿名15名  
岡 邦子 尾形丈人 鶴原暁生  
尾形丈人 小川悠司 鶴原朝子  
梶井龍太郎 手塚和彦  
片山泰輔 仲川昌宏  
金山尚弘 中澤守正  
金田好生 中村 豊  
木賀賢市 橋本純一  
菊池光剛 濱田尚人  
木内正則・道子 早川正希  
原田美保子  
小林 光 アーネストM.比嘉  
古丸 健 平川尚義・暢子  
近藤和喜夫 齋藤脩司 枇杷高志  
斎藤脩司 佐々木真 古庄忠雄  
佐藤大助 増岡聡一郎  
佐野利勝 三浦麻子

# Tokyo Symphony Orchestra

## 公益財団法人 東京交響楽団

■音楽監督……………ジョナサン・ノット  
■桂冠指揮者……………秋山和慶／ユベール・スダーン  
■正指揮者……………原田慶太楼  
■名誉客演指揮者……………大友直人  
■永久名誉指揮者……………アルヴィド・ヤンソンス◆／上田仁◆／遠山信◆  
■名誉コンサートマスター……………大谷康子  
■コンサートマスター……………小林春成／グレブ・ニキティン  
■アシスタント・コンサートマスター……………田尻 順

会 長 澤田秀雄 監 事 磯村文靖  
理 事 長 岡崎哲也 寺西基之  
副 理 事 長 平澤 創 評 議 員 長 金山茂人  
依 田 巽 最 高 顧 問  
専 務 理 事 廣岡克隆 評 議 員 梅沢一彦  
理 事 阿部武彦 鴛海量明  
池辺晋一郎 片山泰輔  
伊藤美樹 加藤英輔  
大橋 博 星 久 人  
庄 司 薫 山 添 茂  
竹中平蔵 特 別 顧 問 飯島延浩  
辻 敏 草壁悟朗  
永山 治 福田紀彦  
夏野 剛  
南部靖之  
福川仲次  
藤原 洋  
増岡聡一郎

楽団長  
廣岡克隆

編成局長  
藤原 真

パーソネル・  
マネージャー  
大和田浩明

事務局長  
辻 敏

事務局  
市川萌都  
伊藤瑛海  
小川博司  
■尾木貴雄  
桐原美砂  
佐藤雄己  
高瀬 緑  
竹内裕子  
長久保宏太郎  
山田道子  
梶川純子  
榎 日向\*

■本部長

(2023年8月1日現在)

|   |   |   |  |  |                                   |
|---|---|---|--|--|-----------------------------------|
| <b>1st Violins</b><br>○木村正貴<br>○堀内幸子<br>小川敦子<br>小山あずさ<br>立岡百合恵<br>土屋杏子<br>中村楓子<br>水谷有里<br>森岡ゆりあ<br>吉川万理 | <b>Violas</b><br>◎青木篤子<br>◎武生直子<br>◎西村真紀<br>○多井千洋<br>○山廣みほ<br>小西応興<br>鈴木まり奈<br>永井聖乃 | <b>Flute</b><br>◎相澤政宏<br>◎竹山 愛*<br><b>Flutes &amp; Piccolos</b><br>高野成之<br>濱崎麻里子<br><b>Oboes</b><br>◎荒絵理子<br>浦脇健太<br><b>Oboe &amp; English horn</b><br>最上峰行<br><b>Clarinets</b><br>◎エマニュエル・ヌグー<br>◎吉野亜希菜<br>近藤千花子<br>小林利彰<br><b>Bassoons</b><br>◎福井 蔵<br>◎富士マリ子<br>坂井由佳<br>前関祐紀 | <b>Horns</b><br>◎上間善之<br>加藤智浩<br>阪本正彦<br>溝根伸吾<br><b>Trumpets</b><br>◎澤田真人<br>野沢岳史<br>松山 萌<br><b>Trombones</b><br>◎鳥塚心輔<br>◎大馬直人<br>住川佳祐<br><b>Bass Trombone</b><br>藤井良太<br><b>Tuba</b><br>近藤陽一 | <b>Timpani &amp; Percussions</b><br>◎清水 太<br>◎山村雄大<br>武山芳史<br>綱川淳美<br>新澤義美<br><b>Librarians</b><br>林 知也<br>加藤幸子<br><b>Stage Managers</b><br>西岡理佐<br>山本 聡<br><b>荣誉団員</b><br>井伊 準◆ | ◎首席奏者 ◇客演首席奏者 ○フォアシュペーラー *研究員 ◆故人 |
|---|---|---|--|--|-----------------------------------|



## TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

1946年、第二次世界大戦によって中断された音楽文化の再建と、新しい舞台音楽の公演を目標に「東宝交響楽団」として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽やオペラの初演に定評があり、これまでに文部大臣賞、京都音楽賞大賞、文化庁芸術作品賞、モビル音楽賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞など日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。舞台芸術創造活動活性化事業として文化庁の助成を受け、サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市とフランチャイズ、新潟市と準フランチャイズ提携し、コンサートやアウトリーチなどを積極的に展開。2020年には「マッチングギフトコンサート」が川崎市の支援のもと開催され、自治体とオーケストラによる前例のない取組が注目を集めた。これら地域に密着した活動の一方で、海外においてもウィーン楽友協会での公演や日中平和友好条約締結40周年記念公演等、58都市で78公演を行い国際交流の実を挙げてきた。

新国立劇場では1997年の開場時からレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演に出演。子どものための演奏会にもいち早く取り組んでおり、「0歳からのオーケストラ」「こども定期演奏会(サントリーホールとの共催)」は多方面から注目されている。また、録音や放送においても活発で、テレビ朝日「題名のない音楽会」へレギュラー出演や、TOKYO SYMPHONYレーベル、N&Fレーベル、キングレコード、EXTONレーベル、日本コロムビア等からCDを多数リリース。

2014年シーズンより第3代音楽監督に就任したジョナサ

ン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。2017年より3年がかりで取り組んだ「モーツァルト 演奏会形式オペラシリーズ」に続き2022年「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」第1弾の《サロメ》は音楽の友誌「コンサート・ベストテン2022」で日本のオーケストラとして最高位に選出されるなど各メディアで絶賛された。

2019年にはジョナサン・ノット指揮『マラー: 交響曲第10番 & ブルクナー: 交響曲第9番』が「ミュージック・ペンクラブ音楽賞優秀録音作品賞」を受賞。音楽誌『音楽の友』の「41人の音楽評論家・記者が選ぶ『コンサート・ベストテン2019』」で最多の3公演が選出されたほか、2020年には音楽監督とともに「ミュージック・ペンクラブ音楽賞オペラ・オーケストラ部門、室内楽・合唱部門(東響コーラス)」をW受賞した。

ITへの取り組みも積極的で、「VRオーケストラ」や、日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サービス『TSO MUSIC&VIDEO SUBSCRIPTION』をスタート。2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。2021年3月文化庁委託事業「文化芸術収益力強化事業」では代表幹事団体として、全国のプロオーケストラとともにチームラボボーダレスでの新感覚コンサートを開催、プロオーケストラとして初めて電子チケットを導入した。

公式サイト: <https://tokyosymphony.jp/>

## ～皆様からのご支援お待ち申し上げます～

東京交響楽団の活動は個人・法人の皆様からのあたたかいご寄付とともに成り立っています。財政状況や定款、税制上の優遇措置についてはウェブ上でもご覧いただけます。

ご質問等ございましたら東京交響楽団川崎オフィス支援開拓本部までお問い合わせください。



## 公益財団法人 東京交響楽団

Tel:044-520-1518 <https://tokyosymphony.jp>

本部 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5

川崎オフィス 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー5階